

純正日蓮主義 本化妙宗・安國寺
(法華經・本門)

(建国記念)

『日本の国に生まれて』 「新元号・令和」



いつてんしかいかいきみようほう
一天四海皆帰妙法



日本の国は、小さな島国ではありますが春夏秋冬四季折々の美し
さを持つ国であります。此の国の成り立ちを考えますと、「天つ神」
と云われた天照大神（偉大にして神聖な先祖の御霊）より始まり
ます。

「豊葦原の千五百秋の瑞穂国は、是れ吾が子孫の王たるべき地な
り、宜しく爾皇孫就いて治せ、行矣、宝祚の隆えまさんことまさ
に天壤と窮り無かるべし」（日本書紀）

現代解釈

天照大神が、天孫(降臨)の天津彦彦火瓊瓊杵尊に豊葦原瑞穗国(日本)に天降つて統治するように遣わされて出来た国であります。

「天つ神さだめたまひし国なれば わが国ながらたふとかりけり
檜原の宮のおきてにもとづきわが日本の国をたもたむ」(明治天皇御製)

現代解釈

天照大神が天降つてこの檜原の地に天孫の天津彦彦火瓊瓊杵尊に統治するようにと。御命じになりました。その初代が人皇第一代神武天皇であります。

太古からの人類の歴史を紐解いてみれば、いずれの時代にも常に争いの繰り返しでした。あの獯猛な虎や豹ですら、仲間同士の肉は食わないと云う仁義を守っている。ましてや万物の霊長である人間同士が互いに争う。其の人間界を平和に改めると云う事から神武天皇の建国が始まりました。

その建国の精神である三種の神器に込められた皇祖の御教えとは？

慶びを積む || 玉の徳(慈悲の心)
暉きを重ねる || 鏡の徳(智慧の心)
正しきを養う || 剣の徳(正義の心)



この三種の神器の誓いのもとに万世一系の天皇の皇位が継承され

てんじようぶんか　ちじよう　こんりゆう
てきました。つまり天上文化を地上に建立すると云う約束の元に始
められた国なのであります。「六合を兼ねて以て都を開き、八紘を掩
ひて宇と為さむこと、亦よからずや」(日本書紀)

現代解釈

てんちしほうはつぼう　すべ
天地四方八方まで、全ての人間が家族のように仲良く暮らす事。
あまてらすおおかみ　てんそん　こうりん　あまつひごほのににぎのみこと
天照大神が天孫(降臨)の天津彦彦火瓊瓊杵尊にお授けになった
みおし
御教え(三種の神器)の心を弘めて行こう。つまり、天下・全世界
を一つの家にすること。

それまで神の国であった日本に仏教が渡来したのは西暦五三八年
とされています。聖徳太子は、仏教渡来の後三六年后に生まれられ
ました。その後、太子に依って日本の仏教は始まりその方向が決定さ
れました。それは国の中での対立・闘争を仏教により浄化して行く事
です。

けんぼう
太子は十七條憲法(二條)の中で、
あつ　さんぼう　うやま
「篤く三宝を敬へ　其れ三宝に帰せずんば、
なに　もっ　ま　な　な　お
何を以てか枉がれるを直さん」。



現代解釈

ぶつ　ほう　そう
三宝とは、仏(お釈迦さま)・法(教え)・僧(修行者)の事。
ほ　よ　ま　た　だ
仏・法・僧の三宝を拠り所にしないならば、他に何に依って
ま　ま　お　こ　ない　た　だ
曲がった心や行を正す事が出来るでしょうか。



いっさい　みなほとけ　な　みち
太子の仏教は法華経に依って一切衆生・皆仏に成る道を目指しま
ほ　き　つ　つ　ど　う　き　よう　り　そう　しゃ　かい　ぶ　つ　こ　く　ど
した。その為、男性・女性共に菩薩道を行じて理想社会「仏国土」



を建立して行く事。

菩薩道とは、自分を後回しにして他の人を先に益す。

「己を忘れて他を利するは慈悲の極りなり」(伝教大師)

この様な仏国土の建立は印度になく、又、支那になく、只、日本に於いてのみ見る事が出来るのです。



法華経で説きあかす真理正法は、自他一體(個人と社会は一體不離)、物心互具(物にも心にも囚われない)つまり、国家の立正安国に依つてのみ初めて到達されます。世界や国家が救われない限り、その中の個人の救いはありません。

我が国の天孫降臨の建国の精神(国体)と、法華経で説かれる三大秘法(本尊・戒壇・題目の仏法)は、共に冥合(理論的に合い通じている)している。これを法国冥合と云います。(仏法と王法は冥冥にして合い通じている)

日蓮聖人は神国・日本の事を「十一通御書」で次の様に申されています。

「夫れ此の国は神国なり神は非礼を稟けたまわず天神七代・地神五代の大神・其の外諸天善神等は一乘擁護の神明なり、然も法華経を以て食と為し正直を以て力と為す」

現代解釈



この国は神の国である。神は礼に背くことを受けられない。

天神七代・地神五代の神々、その他、諸天善神等は法華経修行の神々である。しかも法華経を食となし、正直をもつて力とするのである。

我が国は神が天地・国家を創造し、統一して支配したという思想があります。国を守護する諸天善神は、正法である一乘法華経を人々が信仰するとき、初めてその法味を力として民衆と国土を守護し、福をもたらす働きをします。もし人々が正法である妙法に背けば、善神は国を去り守護の威光勢力を失うことになります。

この様に日本国は、世界平和の基地国家として将来の仏国土建立の為に、前もって確保され作られた国です。しかし、残念な事に日本人の多くがそれを自覚していない。この様な大きな役目のある国に生まれた事を知り、「意」から感謝の心が沸いて来るのです。

世界中の国の中には、生まれた時から頭の上に銃弾の降って来るような国に生まれるのも、その国に生まれるべき「因縁」があるからに過ぎません。改めて日本人である事に誇りをもちたいですね。

毎月第三日曜日に法華経の法話会を行っています。
是非 お越し下さい。



南無妙法蓮華經

合掌

